

Annual Report 2024

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2024



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 10

認定看護師教育課程 11

キャリア開発事業 15

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

奥野信行

京都橘大学看護教育研修センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行うとともに、地域に貢献する看護職者を育成すること」を目的とし、「認定看護師教育課程」と「看護キャリア開発事業」の二本柱で活動しています。

認定看護師教育課程は、2022年度より特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）となり、皮膚・排泄ケア分野の認定看護師を目指す30名の研修生が学んでいます。今年度から教員を増員し、より質の高い教育を提供する体制を整備しました。本課程は毎年多くの看護職の方々に受験していただいております。皮膚・排泄ケア分野における教育ニーズの高さが窺えます。今後も、研修生が最適な学びの環境で成長できるよう、教育内容と体制の充実に努めてまいります。

看護キャリア開発事業では「たちばなSIM」と「看護倫理研修」の2つのプログラムを展開しています。「たちばなSIM」は、本学の卒業生や共に勤務する看護職を対象としたシミュレーション教育プログラムです。本学の清優館1階に設置された「シミュレーションコモンズ」では、集中治療室（ICU）、一般病棟、分娩室、在宅現場、災害現場など、多様な臨床環境を再現できます。2024年度は、6月と8月に2回の研修を実施しました。6月の第1回研修では、「母体急変時の初期対応」をテーマに、現場を想定したシミュレーションを実施し、受講者からは「実際の対応を考える貴重な機会になった」などの声が寄せられました。8月の第2回研修では、「複数患者の検温時の優先順位」をテーマに実践的な訓練を行いました。受講者は、実践的な学びを通じてスキル向上を実感しており、引き続き、よりそう看護を実現すべく、学び続けている卒業生のキャリア支援につながる研修を企画してまいります。

「看護倫理研修」では、臨床現場で直面する倫理的問題についての基本的な考え方を学び、グループディスカッションを通じて倫理的思考プロセスを整理する機会を提供しています。2024年度の研修は9月に実施され、21名の受講がありました。受講者からは、本研修を通じて患者や家族の倫理的問題に直面した際の対応について深く考えることができたとの声が聞かれました。医療現場での看護職の倫理的実践につながることを期待されます。

本センターでは、今後も看護職者の専門性向上を支援し、地域医療に貢献する人材育成に努めてまいります。本年報には、各事業の詳細な活動報告を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。また、皆様からのご意見をいただきながら、今後もより良い研修の提供を目指してまいります。

引き続き、本センターの活動に対するご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日 12月 19日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認 2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認

開催時期	内 容
2014年度 12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告 2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度 4月 18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告 2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認
2019年度 4月 17日	2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 12日	センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告 2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認
2020年度 4月 15日	2019年度修了報告 年間教育実施計画の検討および承認
2月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2020年度の計画の報告 2020年度生の修了判定会議、2021年度休講に関する確認と承認
2021年度 4月 15日	2020年度修了報告 復学・再履修者の年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2021年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会

開催時期		内 容
2021年度		
10月	8日	特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）に関する方針および教育計画について 第二回特定行為研修管理委員会
2月	10日	復学・再履修者の修了判定会議、2022年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2022年度		
4月	13日	2021年度復学・再履修者修了報告 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2022年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月	25日	2022年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月	9日	2022年度生の修了判定会議、2023年度入試結果の確認と承認 2023年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2023年度		
4月	12日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2023年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月	25日	2023年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月	7日	2023年度生の修了判定会議、2024年度入試結果の確認と承認 2024年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2024年度		
4月	10日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2024年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
5月 (臨時)	9日	2025年度入試合格者判定基準について審議と承認
10月	25日	2024年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月	6日	2024年度生の修了判定会議、2025年度入試結果の確認と承認 2025年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
2013年	1月	16日 第9回看護キャリア開発委員会
	2月	19日 第10回看護キャリア開発委員会
	3月	19日 第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会
2014年	1月	22日 第8回看護キャリア開発委員会

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
2015年	1月	6日 第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日 第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
2016年	1月	6日 第7回看護キャリア開発委員会
	2月	10日 第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2月	15日	第8回看護キャリア開発委員会

2017年

2017年度

4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2月	16日	第7回看護キャリア開発委員会

2018年

2018年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
2月	18日	第6回看護キャリア開発委員会

2019年

2019年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	27日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	6日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
2月	7日	第7回看護キャリア開発委員会

2020年

2020年度

4月	第1回看護キャリア開発委員会
5月	第2回看護キャリア開発委員会
7月 22日	第3回看護キャリア開発委員会
11月 2日	第4回看護キャリア開発委員会
2021年 1月 18日	第5回看護キャリア開発委員会
2月 15日	第6回看護キャリア開発委員会

2021年度

4月 26日	第1回看護キャリア開発委員会
5月 25日	第2回看護キャリア開発委員会
10月 22日	第3回看護キャリア開発委員会
2022年 1月 14日	第4回看護キャリア開発委員会

2022年度

4月 26日	第1回看護キャリア開発委員会
5月 27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月 29日	第3回看護キャリア開発委員会
2023年 1月 17日	第4回看護キャリア開発委員会

2023年度

4月 27日	第1回看護キャリア開発委員会
6月 1日	第2回看護キャリア開発委員会
10月 31日	第3回看護キャリア開発委員会
2024年 1月 25日	第4回看護キャリア開発委員会

2024年度

5月 2日	第1回看護キャリア開発委員会
2025年 1月 20日	第2回看護キャリア開発委員会
2月 19日	第3回看護キャリア開発委員会

組織

2024年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

奥 野 信 行	京都橘大学看護教育研修センター 所長
多 田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター 准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
中 務 直 美	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
大 西 永里子	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
大 石 泰 男	京都橘大学健康科学部救急救命学科 教授
餅 田 敬 司	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
那須ダグバ潤子	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
深 山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
川 村 晃 右	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

看護キャリア開発委員会

奥 野 信 行	京都橘大学看護教育研修センター 所長
征矢野 あや子	京都橘大学看護学部長
松 本 賢 哉	京都橘大学看護学部看護学科長
工 藤 里 香	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
中 橋 苗 代	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
深 山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉の研修について

認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉は、「特定行為研修を組み込んでいる教育課程」(B課程)に移行し、開講3年目となる。今年度は、全国の皮膚・排泄ケア認定看護師教育機関が1校増えて計5校となり、そのうち4校がB課程、1校が「特定行為研修を組み込んでいない教育課程」(A課程)で開講している。B課程に移行しても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高く、当学は4.2倍の受験倍率を経た30名が入学した(17期生)。研修生は関西圏のみならず全国から集まっている。

4月8日に入学式を挙行し、4月から7月はeラーニングによる共通科目380時間を学び、その間に3日間×2回の登校日を設け、共通科目の学習を深めるグループワークや科目試験を行った。7月24日から集合教育を行い、263時間の皮膚・排泄ケア分野の専門科目を学んだ。当学のB課程で修了できる特定行為区分は、創傷管理関連の「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」と「脱水症状に対する輸液による補正」の4行為である。特に創傷管理関連は、確実な手技の習得と正しい判断が重要となるため、試験はOSCEや観察評価で行った。皮膚・排泄ケア分野の創傷・ストーマ・排泄に関しては実技演習と症例検討の演習時間を確保して、知識と応用力を高める学習をした。

すべての共通科目、専門科目の科目試験に全員が合格し、10月29日から150時間の認定看護師の臨地実習を開始した。規程の実習時間を終え28名が合格し、2名は追加課題を提出することで合格とした。12月9日からは特定行為実習を開始し、研修生が所

属する自施設並びに当学の協力施設である実習施設で4行為をそれぞれ5症例以上経験し、全員が指導医から合格の評価を得ることができた。

2月3日から再び集合教育を開始した。統合演習において実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、2月28日に修了試験を行った。統合演習、修了試験ともに全員が合格し、3月13日に修了式を挙行した。

これにより当学の認定看護師教育課程の修了生は通算468名となった。

2. 認定看護師認定審査に対するフォローアップ研修

2024年3月に修了した16期生30名に対し、10月2日に行われる日本看護協会の認定審査試験に向けてフォローアップ研修を3回行った(6月、7月、8月)。研修では、認定審査を仮定した模試に取り組み、解答と解説は30名でディスカッションを行った。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的とした。

2024年度の認定審査試験は、30名が受験し、29名が合格(合格率97%)であった。

3. 京都府北部WOCケア出張講座の開催

皮膚・排泄ケア認定看護師の少ない京都府北部のWOCケアの質の向上と、入学生を増やすこと目的に、2025年1月25日に舞鶴市において「京都府北部WOCケア出張講座」(会費無料)を開催した。対象は京都府内で働く看護師とした。今回は初回であることから、臨床で一番悩みが多いと思われる「褥瘡ケアの基本」をテーマに3つの講義を行った。講義1「褥瘡はどうしてできるの? 体圧管理 基本のき」を多田千和子が担当した。講義2「なぜスキンケアが重要か? ~褥瘡予防と褥瘡以外のスキントラブル

～」を中務直美が担当した。講義3「褥瘡をどう治す? ～キズの見方とケアの基本～」を大西永里子が担当した。講義終了後、興味がある方は残っていただき、15分程の時間を設け、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程について紹介した。

参加者は48名で、病院、施設、在宅など様々な背景の看護師が参加していた。受講者アンケート（回収率100%）では、90%以上が「大変有意義だった」「有意義だった」と回答した。自由記載の感想には「予防の大切さや基本を再認識する機会になった」「毎日のケアに取り入れたいと思った」「もっと深く聞きたい、学びたい」「他職種にも聞かせたい」などの声が多く聞かれた。また、「施設管理者に交渉しようと思った」「学んだことを教育、啓蒙していきたい」という声も複数あった。

今回のセミナーを受講し、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程についての紹介を聞いたことでWOCケアに興味を持ち、京都府北部の看護師が皮膚・排泄ケア認定看護師を目指すきっかけになるのではないかと考える。

4. 教員の専門領域の活動について

【多田千和子】

1. 京都橘大学看護学部に対し、下記の講義を行った。

(1)看護学部3回生

生涯健やか看護学 2コマ・生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

2. 以下の関連学術集會に参加し、最近の知見や情

報収集を行い研修教育に活用した。

(1)第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集會（下関市）

(2)第65回関西STOMA研究会（大阪市）

(3)第26回日本褥瘡学会学術集會（姫路市）

口演「予防環境整備2」座長

チーム医療推進委員会企画「褥瘡のタスクシフト・シェア」司会

(4)第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集會（郡山市）

3. 以下の関連学会において活動を行った。

(1)日本褥瘡学会 評議員、チーム医療推進委員会委員

(2)日本創傷・オストミー・失禁管理学会 認定看護師委員

【中務直美】

1. 明治国際医療大学看護学部に対し、下記の講義を行った。

(1)看護学部4回生

選択「スキンケア」（皮膚の解剖、スキンケア、褥瘡ケア、フットケア） 8コマ

(2)看護学部2回生

基礎看護援助論Ⅲ「皮膚・創傷を管理する技術について」講義と演習 3コマ

2. 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。

(1)看護学部3回生

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

3. 以下の関連学術集會に参加し、最近の知見や情

報収集を行い研修教育に活用した。

- (1)第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（下関市）
- (2)第65回関西STOMA研究会（大阪市）
- (3)第26回日本褥瘡学会学術集会（姫路市）
- (4)第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（郡山市）
- (5)第22回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（大津市）

【大西永里子】

1. 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。
 - (1)看護学部3回生

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-テア）」
2. 関西STOMA基礎講習会において、実行委員として事前会議に出席し、開催期間中（2日間）は演習、その他運営を担当した。
3. 社会福祉法人大阪暁明館大阪暁明館病院看護部に対し、下記の講義を行った。
 - (1)看護職員（ラダーⅢ～Ⅴ：経験年数3年以上）

「褥瘡管理」（褥瘡の基礎、リスクアセスメント、褥瘡の評価、褥瘡管理の実際）
 - (2)看護職員（ラダーⅢ～Ⅴ：経験年数3年以上）

「褥瘡管理」（褥瘡予防、スキン-テア、MDRPU）
4. 大阪暁明館病院、大阪中央病院のストーマ外来において、患者・スタッフ指導を行った（各病院月1回）。
5. 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

- (1)第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（下関市）
- (2)第26回日本褥瘡学会学術集会（姫路市）
- (3)第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（郡山市）
- (4)第22回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（大津市）

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子

看護キャリア開発事業

■2024年度 たちばなSIM. 16

■2024年度 看護倫理研修 20

■2024年度 たちばなSIM.

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM.」を開催している。最初は卒業生のみを対象としていたが、「同僚も一緒に参加したい」という卒業生や「病棟の新人を参加させたい」という実習先の病棟からの声を受けて、2017年度からは卒業生のみという枠を外した。参加者を卒業生のみに限定するのではなく、職場の同僚も誘って来てもらうことで、より訪れやすくなったのではないと思われる。

2024年はCOVID-19の影響も少なく、ようやく日常が戻ったといえるが、まだまだ対面での研修会参加を躊躇する雰囲気は見られた。

例年通りオープンキャンパスと同日の開催となった。来場した高校生、そして保護者の方も、興味深く見学していた。そして、心肺蘇生法など、参加者から手ほどきを受けながら、実践を行った。

第1回は6月9日（日）13：00～16：30に開催した。テーマは「母体急変時の初期対応～どんな時でも慌

てない～」とし、正常経陰分娩後の褥婦の異常（弛緩出血）の症例のシミュレーションを実施した。褥婦の異変に気づいた助産師が、適切に初期対応でき、チームで対応していくための行動を問われるシミュレーションであった。今年度の参加者は、卒業年度や経験年数が異なっており、それぞれの実践を持ち寄ってシミュレーションに取り組むことができた。デブリーフィングでは、ファシリテータとしての経験もある卒業生が積極的にファシリテートし、議論が活発に行われた。助産領域における急変対応のシミュレーションは、病院で実施することも多くなってきているが、テーマ、場所、人が変わることで得る学びも変わってくるため、参加者にとって貴重な学びの機会になったといえる。

第2回は8月4日（日）13：00～16：30に開催した。テーマは「優先順位のナゾを解け！—複数患者検温の奥義—」とし、3人を受持っている状況で、次々となるナースコールやアラーム、検査の予定など、どのように対象者の状態把握をし、いつ、何をして

表1 2024年度「たちばなSIM.」開催概要（開催場所：シミュレーションコモンズ）

回	第1回	第2回
日 程	2024年6月9日（日）	2024年8月4日（日）
テ ー マ	母体急変時の初期対応—どんな時でも慌てない—	優先順位のナゾを解け？—複数患者検温の奥義—
担 当 者	工藤・野島・下村	野島・小山・河原・平岡・室住・足立・岡島
調 整 者	安部・工藤	安部・工藤
受 講 人 数	4名	12名
プログラム	アイスブレーキング 心肺蘇生（見学者も一緒にやってみよう） 京都プロトコル 事例紹介 ブリーフィング シミュレーション デブリーフィング Sharing	アイスブレーキング 事例紹介 教育用電子カルテから情報収集 ブリーフィングセッション シミュレーションセッション（1回目） デブリーフィングセッション（1回目） シミュレーションセッション（2回目） デブリーフィングセッション（2回目） まとめ 部屋周りの奥義を極める！

表2 2024年度「たちばなSIM.」アンケート調査結果

回	第1回	第2回
テーマ	母体急変時の初期対応	優先順位のナゾを解け?
1. たちばな SIM は、興味を引く内容でしたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 2名（100.0%）	5（とてもそう思う） 6名（54.5%）
	4 0名（0%）	4 5名（45.5%）
2. たちばなSIMは、日々の仕事の役に立ちそうな内容でしたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 2名（100.0%）	5（とてもそう思う） 7名（63.6%）
	4 0名（0%）	4 3名（27.3%）
	3 0名（0%）	3 1名（9.1%）
3. たちばなSIMを受講して「やればできそうだ」と思いましたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 2名（100.0%）	5（とてもそう思う） 2名（18.2%）
	4 0名（0%）	4 9名（81.8%）
4. たちばなSIMを受講した満足度を「1」を最も低い、「5」を最も高いとしてお答えください。		
	5（とてもそう思う） 2名（100.0%）	5（とてもそう思う） 7名（63.6%）
	4 0名（0%）	4 4名（36.4%）
5. 参加した感想をなんでもお書きください。また今後たちばな SIM で実施してほしいテーマがございましたら、お聞かせください。（記載内容：原文）		
・実際に自分が現場でどのように動く必要があるのかを考えるための大切な時間になりました。今日考えたことや気づいたことを実際に働くなかで活かしていきたいです。自分の信頼できる親しい先生に意見をいただいたり、先輩に意見をいただきながら実施できたのは、とてもいい環境だと感じました。ぜひまた参加したいです。 ・先日、産後出血の患者に対応する機会があり、産後出血の患者を目の前にできることが少ないと感じておりました。今回の研修の機会をいただいて、シミュレーションでも、自分のできなさを実感しました。しかし、その中でも自分のできることを優先順位を立てたり、自分ができることや、見たことを言葉にすることが大事で私にもできそうだと思います。産後出血の産婦さんがいないことが 1 番良いのですが、対応する機会があれば、今回の研修が活かせそうだと思います。 ・日々の課題であった「優先順位」が練習できてよかったです。これから落ち着いて焦らず日々の業務ができるように考え続けたいと思います。 ・病棟で働く時の参考になった。今回学んだことを忘れず、病棟に出た時に優先順位を意識して看護できるようにになりたい。 ・アットホームな雰囲気でシミュレーションできて楽しかったです。 ・今回行ったのは日勤バージョンだったが、夜勤バージョンではまた雰囲気や患者さんの状態が変わってることもあると思うので、違うバージョンでもやってみたいと思いました。 ・普段は経験しない領域でしたが、優先順位を考えて動く大切さに気づくことができました。 ・今日学んだことを明日からの仕事に活かそうと思います。ありがとうございました		

- ・今の自分の課題である優先順位を付けて周るということに対しての研修でとても興味を持って参加することが出来ました。普段は1人でどうしたらいいのかと悩み、先輩に相談していることを、同じ悩みを持った人たちと相談しあえたことで自分になかった視点も気づけたし、患者さんへの関わり方も見ることが出来たのでとてもいい時間になったなと思いました。
- ・研修ありがとうございました。優先順位をつける中で、患者さんの病態や時間が決まっている点滴などから優先を考えるだけではなくて、その患者さんに起こりそうな症状や必要な処置を頭に入れ優先度を考えていくことが大切だと学びました。ありがとうございました。
- ・優先順位を考える上で、どんな情報が必要なのか、何を考慮すべきなのかを、看護師同士で意見を出し合うことで深く考え実践していくことができました。今日の学びを早速明日から実践していきたいです。
- ・優先順位を考える上で、患者の状態や時間処置などやることが様々にある中で、相談しながら優先順位を決めることが出来た。自分の考えだけでは至らないところもあったので、皆と相談しながら進められたので知見が広がった。



図1 第1回 まずは自己紹介から



図3 第1回 高校生と一緒に胸骨圧迫



図2 第1回 胸骨圧迫を知る



図4 第1回 シミュレーション

いくつか、アセスメントを行う内容であった。ファシリテーターは、グループディスカッションが促進されるように関わり、和気あいあいとした雰囲気になるよう努めていた。

たちばなSIM. に参加することで、前もって様々な症例の、様々な変化を経験することで、実際に現場で起きた時に、少しでも行動できることに繋がると期待している。デブリーフィングでは、基本的な知識を振り返りながら、対象者理解やケアの優先順位、それぞれの経験を活かした役割分担を学んでほしい。

全プログラムを通して、参加者のアンケート結果から、明日から実践していきたい、先輩に意見をいただけてよかったという評価を得ている。安心できる環境の中で学習することにより、自身の看護実践における行動について振り返ることに繋がっていたといえる。母校（もしくは同僚の母校）で学ぶ機会として、今後もたちばなSIM. を充実させていき、卒業生のニーズに応じたプログラムを提供していきたい。そして、これからも一緒に「人によりそう看護とは何か」を追求していきたい。

看護学部 准教授 工藤 里香



図5 第1回 デブリーフィング



図7 第2回 優先順位を決めたら即実践



図6 第2回 電子カルテから情報収集



図8 第2回 楽しくデブリーフィング

■2024年度 看護倫理研修

京都橘大学看護学部では、2018年度より看護職者を対象とした「看護倫理研修」を開催している。今年度は、2024年9月28日（土）に「臨床で直面する倫理的課題にどう向き合うか？—事例を通して考えよう—」をテーマとし、研修会を実施した。研修会は、参加者がさまざまな人と、ゆっくり、率直に意見交換ができる場になるよう企画した。

1. 看護倫理研修会の概要

31名の申込みがあったが、直前のキャンセルもあり参加者は21名であった。参加者はベテラン層が多く、半数は役職を持っていた。詳細は表2～5参照。研修参加の動機は、「所属病院の倫理委員だから」

「自施設での研修開催のための参考にしなかった」「部署内で倫理カンファレンスを計画しているから」といった、倫理研修会の企画・運営者としてヒントを得ることを目的としたもの、「看護倫理が苦手だから」「倫理に関心がある」「倫理的問題を考えることが増えたため」「倫理的問題の解決に向けての知識を高めたいから」といった自己研鑽を目的としたもの、さらに「他病院での取り組みや他病院で働いている看護師とディスカッションをすることで新たな価値観と知識を身につけたい」「倫理的問題についての話し合いに興味があり、色々な方の意見を聞きたい」といった、他施設の人との交流を目的としたものであった。

表1 スケジュール

時間	内容
13：00～13：05（5分）	オリエンテーション
13：05～14：25（80分）	【講義】 倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて講義
14：25～14：35	休憩
14：35～14：40（5分）	事例検討のすすめ方、グループワークと発表方法について
14：40～15：50（70分）	【グループディスカッション】 ・自己紹介、役割分担（司会、書記、発表者等） ・事例の決定・共有 ・事例について分析シートを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について検討する。
15：50～16：00	休憩
16：00～16：40（40分）	発表
16：40～16：50	ファシリテーターからのコメント
16：50～16：55（5分）	研修のまとめ 修了証授与・アンケート

表2 参加者の概要（N=21）

年齢	20代：5名、30代：2名、40代：10名、50代：4名
看護職経験年数	5年未満：1名、5～10年：4名、11～15年：4名、16～20年：2名、 21年～25年：4名、26年以上：6名
職場での役職	スタッフ：12名、副主任：1名、主任：4名、師長・課長：4名

表3 研修会を知ったきっかけ

チラシ	13名
本学教員からの紹介	1名
その他	所属施設からの案内 3名 同僚からの紹介 2名 上肢からの紹介 2名

表4 看護倫理に関する研修会等への参加経験

ある	14名
ない	7名

表5 研修会(部署内の学習会等含む)の企画者か

はい	6名
いいえ	8名

参加者は、前半の講義で看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領など、看護倫理に関する基本的な知識を学習した。後半は、参加者自身が経験した事例をもとに、講義内容を参考にしながらグループディスカッションを行った。さまざまな事例についてディスカッションできるよう1グループ3名の少人数とし、同じ施設・看護師経験年数・職位が重ならないように工夫した。さらに、2グループに1名のファシリテーターを配置し、グループワークが円滑に進むようサポートを行った。全グループとも臨床現場で遭遇したりアルな事例を取り上げ、4ステップモデルを用いて事例を整理し、看護実践のあり方についてディスカッションを行った。取り上げた事例は、「がん終末期患者の療養場所に関する意思決定」「意識レベルが低下した患者の代理意思決定」「認知症せん妄患者の身体拘束」「積極的治療を望まない患者の治療選択における患者と家族の意思の対立」等であった。初対面であったものの和やかにディスカッションが進み、自身の施設の取り組みや対策

等を意見交換している場面もあった。

研修会終了後に、相談コーナーを設けていたが、研修会でニーズが満たされたという事で相談者はいなかった。

2. アンケート結果（一部抜粋）

1) 本日の研修を終えての今の思い、これから実践してみたいこと

- ・患者さんの歴史をもっと知ろうとスタッフに伝えたい。
- ・患者の人生観、背景を理解して、その人らしい最期を迎えられるよう支援していきたい。
- ・患者さんについて話し合うことが、倫理につながると思った。
- ・グループワークを行い、様々な意見を聞くことでモヤモヤが解消された。
- ・現状におかしい、これでいいのかと疑問を持ちたい。問題提起をしたい。
- ・答えが出なくても一緒に悩むことが大切だと思った。
- ・日々の看護に繋げていきたい。
- ・難しいながらも考えていきたい。
- ・看護をしていて倫理的問題があるのが当たり前で、それに気づくことが大事。
- ・分析シートは使いやすく、導入しやすいと思ったのでカンファレンスで活用したい。
- ・病棟特有の問題はあると思うので病棟の看護師と話し合う機会を作っていきたい。
- ・他施設の方との情報共有により、スタッフが倫理的感性を高めるための取り組みなど聞けて学びになった。
- ・患者の今後の生活など意思決定は考えても足りないくらいだと思うため、もっと他者と話し考えを深めたい。

2) 倫理的な課題や問題について、もっと考えたいこと、話し合っていたいこと

- ・苦手意識をなくす導入方法、現場で看護にどう活かすか
- ・身体拘束
- ・APC開始のタイミング、意思決定支援
- ・不穏やせん妄による暴言をふるう患者との関わり、他病院での対策・関わりを知りたい
- ・小児の事例

3) 自由記述

- ・いろいろな病院の取り組みを聞いて参考になった。
- ・大変有意義で楽しかったです。また来年も参加したいです。
- ・日々の業務に流されてが、自分の気持ちや信念を大切にしたい。
- ・とてもわかりやすい講義でした。すごく刺激を受けました、
- ・部署内で共有し、明日からでも実践していきたい内容だった。多忙という理由で見逃していることがたくさんあったと自身の看護を振り返る良い機会となった。自身の行っている看護が患者の益であるか常に考えて看護を行っていききたい。
- ・今回の研修を通して、看護倫理の視点が広がり、もっと様々な事例を話し合いしてみたいと思いました。
- ・グループでの検討は自分の事例ではありませんでしたが、講義を受けた事と各グループの発表により、すっきりもしました。グループの事例もどの病院においてもある事なので良い事例でした。
- ・来年も自施設の病院のスタッフに行ってもらいたいです。

・今回、講義を受けて色んなガイドラインを確認しようと思いました。

・カンファレンス導入前に、実際どのように進めていけばよいのか悩んでいたのも、実践形式で事例検討していったのはイメージしやすくて、凄く良かった。

・他の方の症例もディスカッションしたかったのも、1日研修が良いと思いました。

・時間をもう少し長くとれて、最後までともに検討していけたら良かったと思いました。

・交通の便がかなり不便なので、研修日はバスが大学前から出ているといいと思いました。

3. 評価と今後の展望

参加者の発言、アンケート結果からは、研修会が日々の看護実践での悩みを共有し、多様な視点でのものの見方に気づき、自己の看護実践を振り返る時間になっていたと考える。「グループワークでさまざまな意見が聞けた」「他施設の方との意見交換がとても勉強になる」「モヤモヤがすっきりした」という声からは、自施設ではない場所で話し合いの場を持つことの意義がうかがえた。また、「患者さんについて話し合うことが倫理につながる」「明日からでも実践していきたい」「ガイドラインを積極的に活用していきたい」「日常的に倫理を考え」「定期的にカンファレンスしたい」「スタッフに勧めたい」といった声からは、研修会の学びを積極的に職場に還元しようという姿勢がうかがえ、ジレンマや葛藤を抱える看護職をエンパワーするような内容であったことがわかる。さらに、倫理研修会を企画する立場の看護師の参加も多く、事例検討のやり方がわかったという声もあり、企画・運営方法を学びたいというニーズにも応える内容であったと考える。

一方、大学までのアクセスの不便さ、事例検討の



講義



ディスカッション

時間の延長を希望する声などもみられた。他施設での取り組みや対策について知りたいというニーズもあったことから、バスの時間を考慮した上での研修会の時間、事例検討以外の意見交換の場の設定等、参加者のニーズにこたえられるよう、引き続き検討していきたい。

看護学部 准教授 中橋 苗代



修了証授与

京都橘大学看護教育研修センター 年報2024

発 行：2025年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel：075-574-4325

E-mail：aca-nm@tachibana-u.ac.jp

URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/